

1. 教育の責任

＜英米の社会と文化（講義、秋学期、2 単位、385 名）＞

イギリスの社会制度・政治・経済に加えて、それらに関連した文化・芸術・娯楽をテーマごとに、また適宜テーマの垣根を越えて概説することで、様々な要素が絡み合っている一つの国家というネットワークが作られていることを伝える。必要に応じて関連するアメリカの事情にも目を向ける。

＜イギリス・アメリカを考える（演習、秋学期、2 単位、10 人）＞

イギリスについて様々なテーマを幅広く紹介した英文を読むことで、主に現代イギリスに関する一般教養レベルの知識を身に付け、同時に英語力を向上させる。必要に応じて関連するアメリカの事情にも目を向ける。

2. 教育の理念

＜英米の社会と文化＞

広くイギリスの社会・文化に関する知識を獲得し、その歴史的変遷や政治経済的側面にも着目しつつ、国際人としての教養を身に付ける。換言すれば、イギリスを例にとって国家を形成する諸要素に関する受講生の理解を深め、日本やその他の国々を分析したり、国際関係を考察したりする能力を育てることが目的である。

＜イギリス・アメリカを考える＞

イギリスに関する一般教養を身に付けつつ、様々な事象を平易な言葉で表現するための日常的な英語表現を修得させるのが目的である。国際人としての人文的な教養と実用英語の接続を目指している。

3. 教育の方法

・概要

＜英米の社会と文化＞

日々、変化する国際社会において、国家を形成する諸要素に関する理解を深め、国際関係に関する分析を行うことを目的としているため、あくまでもイギリスにおける社会・文化に関する個別の事例を扱いつつ、個々の事象が発現する要因に着目し、因果関係を考察することを心掛けている。扱うテーマはイギリスという国家の成り立ちから王室、政治、階級、食と多岐に亘るが、幅広い個別例を取り上げつつ、歴史的変遷や政治・経済的側面を考慮し、通時的ないしは学際的な目配りを忘れず講義を行っている。受講生は日本と同じ島国の社会と文化の諸相に通じることで、日本とイギリスとの共通点や相違点、そこから見えてくる国家の栄枯盛衰に目を向け、大学生としての思考力を身に付けてくれるものと考えている。

＜イギリス・アメリカを考える＞

イギリスに関する一般教養を身に付けつつ、様々な事象を平易な言葉で表現するための日常的英語表現の修得が目的であるため、教科書で扱われているイギリス文化や社会に関する簡潔な補足的解説を適宜盛り込みつつ、英語力涵養という実用性との接点を模索している。これにより、受講生がイギリスへの関心を強め、それが原動力となって英語力そのものの伸長してくれることを願っている。

・具体的実践

＜英米の社会と文化＞

パワーポイントに音声吹き込み動画ファイルとしたものを、授業資料としてアップロードしている。また、学生のメモの便宜も考慮し、pdf ファイルも添付している。著作権に配慮しつつ視覚資料を出来るだけ使い、学生の理解を助けるように心掛けている。

＜イギリス・アメリカを考える＞

教科書の内容と関連して、イギリスについての文化的な知識を必要に応じて伝えとともに、映像を用いた補足のリスニングなどを行い、英語の音声面の特徴、映像で描かれる社会文化的側面にも注目させている。

また、どの科目に関しても、添削の必要な課題の提出、その他学生からの連絡には可能な限り迅速に応答するように心掛けている。

4. 教育の成果

現在、進行中の科目であるが、学生の課題の提出状況、定期的に行っている試験等の結果から判断すると、皆関心を持って受講してくれているものと考えている。

5. 改善への努力と今後の目標

複雑な要因によって引き起こされる諸々の事象を簡潔かつ分かりやすく説明するのは、教員が知識を整理し咀嚼した上で、独自の視点を提示する必要があると考えている。自らの専門分野の知識とその周辺の関連知識を、先行研究を俯瞰しつつ融合させ、幅広いテーマに関して興味深くためになる講義ができるように、研鑽を積んでいきたいと考えている。

【添付資料】

＜英米の社会と文化＞

- パワーポイント資料
- 動画資料
- pdf 資料

＜イギリス・アメリカを考える＞

- リスニングプリント